



まえむきに



副会長 長田 朋久

新年を驚きの新型コロナウイルスの感染者数で迎え、何とも落ち着かない年明けとなりました。令和2年は「パンデミック」という新たな経験をした貴重な年と前向きに捉えたいと思っています。もちろん、このような経験はもう2度としたくないですが…視点を変えてみますと、

「人と人、社会はコミュニケーションで成り立っている」

「特に保育園の子どもたちの育ちにはコミュニケーションやスキンシップが絶対に必要不可欠なもの」

「医薬の分野の今日の進化は想像以上にすばらしい」

「社会は、様々な人たちが様々な仕事を通して成り立っていて、特に今回、疫学や薬学に携わっている方のそれぞれの仕事に心から感謝（もちろん医療関係者も含めたエッセンシャルワーカーも）」

「経済活動が止まってしまうというのはこういうことかと報道や保護者を通じて痛感」

「リモートで仕事が成り立つ職業とそうでない職業」

「保育園で働く職員はエッセンシャルワーカー」

など、新型コロナウイルスがなければ敢えて際立たなかった様々な事象が、私の中で浮き彫りになりました。今の子どもたちが大きくなった時に、必ずや語り継がれる大事件です。その真ただ中まんなかを生きているという実感を持ちながら、私自身の明日の肥料こやしにできればと思いつつ日々生活しています。

昨年の年末、12月21日（月）に墨田区の園長会があり、その席で「当園では保育士も園児も園児の保護者も、近い人たちに陽性者も濃厚接触者も出ていないです。そろそろ、この感染状況だと一人ぐらい現れてもおかしくない社会状況なのに不思議だなあ」と話をした、その翌日の12月22日（火）、園児の保護者から突然の電話「父親が陽性になりました。これから子どもを迎えに行きます」「ええっ！いきなりの陽性???濃厚接触者になった段階で園に連絡をお願いしていたのに…なぜ???」お母さんに詳しく聞くと、「会社で陽性者が出たため、独自に全社員PCR検査を行った結果、父親に陽性反応が出た」とのこと。お母さんも突然のことで驚きながらの説明でした。その後保健所の指示で、母子ともに12月24日（木）にPCR検査を受診。12月25日（金）母子ともに陽性が判明。3人とも無症状。しかし、すでに父親は一人でホテルに隔離。お母さんは妊婦のため、ホテルの父親と交代で入院となり、父子で自宅で療養とのこと。

園は保健所から「12月28日（月）を臨時休園としてください。そしてその日は保育園で濃厚接触者（園児14名・職員8名）のPCR検査を行います。結果は12月29日（火）の夜7時ぐらいには判明します」との連絡を受け、全園児の保護者に電話で臨時休園のご協力をお願いをし、全保護者の了解を得ることができました（もともと、12月29日～1月3日は年末年始休園）。12月29日（火）の夜、結果が出るまで園で待機、すると保健所から「検査数がものすごいため、今日中には結果が出ない。明日連絡します」と電話。悶々としながらこの日は帰宅。翌日朝8時半より、園で連絡を待つが、12時半ころ、やっと「全員陰性です」という報告が来て、ほっと一安心。クラスターになることはなかったので、その旨、全保護者、全職員、関係各位に連絡をし、安堵して帰宅。年を越すことができました。

新年を迎え1月4日（月）、濃厚接触者以外の園児や職員が出勤してきて変化がないことを確認。濃厚接触者は2週間の自宅待機要請に基づいて1月6日（水）まで自粛。1月7日（木）に園児も含め職員も皆、無事に登園してきて、この件は終了となりました。

私自身、中々経験できない年末年始を体験し、そして東京都では驚きの感染者数（12月31日は1,337人、1月7日は2,447人）と共に新たな令和3年という年がスタートしました。この原稿がお手元に届く3月には、もしかしたらワクチン接種が始まっているのでしょうか？子どもたちの成長は待ってくれません。一時一時いっときいっときがとても大切な時間を送りながら、日々成長しています。早く元の保育に戻れるように、皆さんと共に感染拡大防止に注意を払っていきましょう。